2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	480 (12) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	各実習施設
担当教員	高柿有里・松尾泰子・高木志穂				
実務経験とその関連資格	高柿:総合病院にて急性期リハに從事した経験有。日本言語聴覚士協会 会員、兵庫県言語聴覚士協会 会員、大阪府言語聴覚士協会 会員、神経心理学会 会員 医学教育学会 会員、医療の質・安全学会 会員 松尾:松尾:言語聴覚士として小児通園施設での勤務を経て、2003年より大阪医療福祉専門学校 学内実習施設「ことばの相談室」を開室し発達障害児の言語訓練及び保護者相談に從事。日本言語聴覚士協会 会員 生涯学習部部員、日本発達障害学会 会員、日本コミュニケーション障害学会 会員、大阪府言語聴覚士会 会員 高木:高木:言語聴覚士として小児の医療福祉センターで入院している肢体不自由児・者への摂食嚥下、コミュニケーションのリハビリテーションに從事。外來では神経発達症(知的能力障害、自閉スペクトラム障害、限局性学習障害等)や肢体不自由児への摂食嚥下、言語・コミュニケーションのリハビリテーションを行う。その後、市立児童発達支援センターで相談業務、神経発達症や肢体不自由児の通所事業への支援、子ども園、小学校への巡回相談、定期健診				
《授業科目における学習内容》	これまで学習した言語聴覚療法全般にわたる知識・技能を基に、実習指導者の指導の下で対象児者の評価、ゴール設定、訓練計画の立案、訓練の実際、記録・報告等一貫した言語聴覚療法を経験する。さらに言語聴覚士の社会役割・責任について学ぶ。				
《成績評価の方法と基準》	実習評価基準(実習の手引き)に基づく。				
《使用教材(教科書)及び参考図書》	これまで使用した教科書全般				
《授業外における学習方法》	各施設において言語聴覚療法における評価方法、訓練について実践的に学ぶ。指導者について見学した内容を実習記録にまとめる。対象者に対する評価方法について事前に学習する。				
《履修に当たっての留意点》	臨床現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会です。実習をより実りあるものにする為に学内での授業・実習をしっかり受講し、事前準備を万全にして臨んでください。				
実習プログラム					
実習期間 時間数	(1期目)8/25-9/26(160時間)、(2期目)9/29-11/29(320時間)計480時間				
実習の目的	(1) 言語聴覚療法の流れを経験する。 (2) 医療従事者としての患者様に対する接遇を修得する。 (3) 言語聴覚療法の対象児・者に対する治療を経験する。				
実習の内容	①臨床実習オリエンテーション ②現地実習 1) 評価:実施スケジュールを立てる。 時間の調整、場所、物品等の事前準備を経験する。 対象者にインフォームドコンセントを行う。(リスク管理を含む) 対象者の変化に気づき、報告・連絡・相談を経験する。 言語聴覚療法領域の問題点の抽出を経験する。 言語聴覚療法領域のゴール設定を経験する。 2) 治療:時間の調整、場所、物品等の事前準備を経験する。 対象者へのインフォームドコンセントを行う。(リスク管理も含めて) 対象者への標準的な訓練を経験する。 対象者の変化に気づき、報告・連絡・相談を経験する。 3) 記録:専門用語を用いて簡潔にまとめることを経験する。 訓練のまとめを報告書として作成する。 ③臨床実習終了後フィードバック 1) 症例報告会 2) 提出物				